

平成26年度 第2回藤沢市介護保険運営協議会

日 時：2014年（平成26年）8月21日（木）
午後2時00分から

会 場：藤沢市保健所 3階研修室

1 開 会

2 議題

3 〈公開議題〉

(1) 平成25年度介護保険事業の実施状況及び平成25年度地域包括支援センター活動報告について

- ・事務局から【資料1】、【資料2】について説明。
- ・委員：①小地域ケア会議の各地域の開催回数は。
②生活支援等の地域ニーズは具体的に出てきているのか。
③事業所が小地域ケア会議に入れないようだが、そのことについてはどう考えるか。
④包括支援センターについて、土日対応しているところがあるとのことだが、どのようにやっているのか。
- ・事務局：①小地域ケア会議の要綱上は年4回となっている。実績としては、1地区については月1回、1地区については2月に1回開催したところもあるが、その他の地区は、年4回～5回となっている。
②各包括支援センターの日々の業務の中で、ニーズらしきものは出てきているが、はっきりとした地域ニーズとしては、まだ具体的には出てきていない。今後、包括支援センターが利用者モニターリングをした際に利用者にも協力をしてもらってニーズ調査ができないかと考えている。
③事業所の参加について、必要であれば参加できるようになっている。

④休日は基本的に事業所を閉めているが、緊急時には連絡がつくようになっていて、必要であれば対応できるようにしている。

- ・委員：①そもそも、地域ケア会議とはどんな会議なのか。
②複合型サービスとはどんな会議なのか。
- ・委員・事務局：①小地域ケア会議は、包括支援センターが事務局となって、ニーズ調査をし、課題克服の検討をしている。参加者は、市民センター、民生委員、自治会、行政、事業者等となっている。ブロック会議は、年3回、小地域ケア会議では解決できないようなものを議題として、情報交換を行っている。去年は、独居の高齢者の方と地域をどうつなげるかを課題としていた。
②小規模多機能型居宅介護に看護師配置をプラスしたサービス。看取り等のニーズ対応を想定したもので、市内にはまだ一つしかない。利用は、医療依存度の高い方が中心となる。
- ・委員：①包括支援センターについて、地域包括ケアシステムを考える上で重要だと思うが、機能強化（例えば人員体制強化）の考え方は。
②包括支援センター間の役割分担、連携、特色を生かす点についての考え方は。
③包括支援センターの取り組みに対する評価・点検について、この運営協議会も積極的に行うべきと思うが、継続的な評価・点検の考え方と、その周知の仕方についての考え方は。
④地域ケア会議の政策形成機能は重要だと思うが、もっとそれについて取り組みをするべきではないか。
- ・事務局：①来年度、市役所内に機関型の包括支援センターを作ることとしている。今ある包括支援センターの後方支援的に機能強化を図っていききたい。まずはそこから始めていききたい。
②包括支援センター間の連携については、月1回の連絡回を開いて情報交換等を行っている。また、それぞれ、運営法人によって、医療法人であったり社会福祉法人であったりと特色があり、それを生かしながら活動を行ってもらっているところである。今後、機関型の包括支援センターを作るに当たって、さらに、役割分担や特色を生かした活動について、整理をしていききたい。
③包括支援センターの取り組みに対する評価や点検について、包

括支援センターからは年1回、自己評価という形で市とやりとりは行っているが、この運営協議会で評価・点検を行っていただくことができていなかった。今後は、今までの自己評価の仕組みに加え、この運営協議会の場で評価・点検を行っていただき、それを包括支援センターにフィードバックできるような仕組みも考えていきたい。

④地域ケア会議については、まだまだ始まったばかりで、政策形成というところまでいっていない状態であるが、今後、進んでいくにつれて、提示できるものもでてくると考えている。また、介護保険制度改正も控えており、29年度を目処に地域ケア会議のあり方も見直していきたいと考えており、その際には、政策形成機能の強化という視点も入れていきたい。

- ・ 委員：藤沢市は、包括支援センターが有効に活動していて良いと思う。また、地域ケア会議も各地域でされていたり、実態調査が行われているということも良いと思う。お願いとしては、現状の課題も色々とは思いますが、2025年、及びその先を見たときに、本当に今の地域がより高齢化したときにサービス提供は大丈夫なのかの検討もして欲しい。また、連携ということについて、現場で調査や会議が行われており、介護の世界では連携をとっていることは非常に良いと思うが、将来的に看取り等をするとところが無くなってしまわないか等の課題もある中で、医療との連携を図っていく視点を入れて考えていって欲しい。
- ・ 委員長：藤沢市医師会としても、在宅に力を入れていくということが計画されており、介護の方とも連携をとっていきたいと思う。
- ・ 委員：第6期計画でニーズを吸い上げて、その次に医療との連携を図ることだが、そのペースで間に合うのか。
- ・ 事務局：関係する団体等と一緒に協賛する場がなかったので、協議会を作って進めていく中で、なんとか間に合うようにやりたい。
- ・ 委員：ケアマネの質の評価について、介護支援専門員の評価をどうするかは軸が難しい。今はプロセスのみが評価の対象であって、ユーザー側からの評価というしくみがない。その中で藤沢市として質

の評価をどうするか、検討が必要だと思う。

- ・委員：サービス事業所の質ということについて、サービス量が増えていてサービス提供側が逼迫している状況で、質については頭が痛いとのこと。例えば訪問介護でいえば短期的、突発的、緊急的な依頼が多い。
- ・委員：その理由として考えられるのは、一つはケアマネのアセスメント不足なのではないか。あとは、介入が遅いこととか。あとは、退院までの期間が以前より短くなってきていることもあるかと思う。
- ・委員：ケアマネの数は足りているか。
- ・委員：事業所の数は増えているし、みんなが手一杯というかんじではないと思う。
- ・委員：協議会等には、ぜひ法律職も加えて欲しいと思う。成年後見のことや虐待のことなど、法的サポートが必要なものも出てくると思う。

(2) 予防給付に係るマネジメント業務の委託可能な居宅介護支援事業所の承認について

- ・事務局から【資料3】について説明。
 - ・現在までに承認を受けた事業所及び承認後の稼働事業所状況一覧
 - ・指定介護予防支援事業者が指定介護予防支援業務を委託できる指定居宅介護支援事業所の承認について
 - ・現在までの承認事業所数
 - ・今回の承認について
 - (市内 指定居宅介護支援事業所数 3事業所)
 - (県内市外 指定居宅介護支援事業所数 5事業所)
- 承認の対象となる8事業所が「遵守すべき事項を満たし、予防給付に係るマネジメント業務業務を委託することに付き支障がない旨を説明。
- ・委員：県外の事業所というのは、実際に市民が市外に移って、そのニーズが生じたから出てくるものなのか。

- ・事務局：そのとおり。
- ・委員一同 本日承認を求められた8事業所について、承認する。

(3) 藤沢市高齢者保健福祉計画（藤沢市介護保険事業計画）の策定について

- ・事務局から【資料4】について説明。
- ・委員：計画策定にあたっては、介護予防の視点、元気高齢者の社会作りの視点で、各計画間の連携をとって進めていただきたい。
- ・委員：人材育成が大切だと思う。現状、運営のための人員で精一杯。研修に行かせる余裕がない。あと、地域の魅力作りをして欲しい。働く人と住む人がずっとここにいたいと思える街を目指して欲しい。
- ・委員：一般の高齢者が何を望んでいるのか、その計画に反映されるのか。
- ・事務局：元気な高齢者向け、また、要介護認定・要支援認定を受けている高齢者向け、それぞれにニーズ調査を行う予定なので、その調査結果を分析し、計画に反映させていく予定である。

(4) 特別養護老人ホーム等の整備状況について

- ・事務局から、【資料5】について説明。
- ・委員：整備計画が変わったときの市民周知をしてほしい。

(5) その他

- ・「平成26年度介護予防講演会 認知症を予防しよう！」について
- ・「藤沢から日本の未来を変える」について

〈非公開議題〉

(6) 地域密着型サービス事業者等の指定状況について